

社会科（地理的分野）学習指導案

平成○年○月○日第○校時
 ○○○中学校 2年○組○名
 指導者 ○○ ○○ 印

1 単元名 「九州地方～自然環境を中核とした考察～」

2 単元設定の理由

(1) 教材観

「世界と比べた日本の地域的特色」の(ア)「自然環境」では、世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害について学習した。本単元では、九州地方について、地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、人々の生活や産業などと関連付けて学習することができる。また、地域の自然災害に応じた防災対策についても考えることができる教材である。

(2) 生徒観

生徒は、第1学年の「世界の諸地域」で、世界の州ごとに地域的特色を大観した上で主題を設けた学習を行った。生徒は世界の各州に興味をもって地図帳や資料を使って積極的に調べることができた。本単元においては、自然環境と人々の生活や産業との関連に関心を持って、主体的に地域的特色を見出し、自分の考えを発表していくことが期待できる。

(3) 指導観

本単元では、九州地方の地形や気候、土壌などの自然環境における地域的特色と、農業や工業、自然災害を、地図帳や各種資料から生徒に調べさせる。それを基にして、自然環境と人々の生活や産業との関連を考察させ、自分の考えを表明させる。それにより、九州地方の農業や工業の地域的特色と地域の自然災害に応じた防災対策について理解させたい。

3 単元の目標

- (1) 九州地方の地域的特色に対する関心を高め、様々な資料を適切に読み取らせ、自然環境を中核とした考察の仕方を基に多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。
- (2) 九州地方について、自然環境を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解させ、その知識を身に付けさせる。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
①自然環境を中核とした考察の仕方を基に、九州地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	①九州地方の自然環境に関する特色ある事柄を中核として、それを農業や工業、自然災害などと関連付けて多面的・多角的に考察している。 ②九州地方の地域的特色について考察した過程や結果を、地図を活用してまとめたり、図表にまとめたりして適切に説明している。	①適切に選択した情報を基に、九州地方の地域的特色について読み取り、まとめている。	①九州地方について、自然環境を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

5 指導計画

第1次 九州地方を特色付ける地理的事象を見いだそう・・・2時間

第2次 九州地方の特色について自然環境を中核に追究しよう・・・2時間(本時 1/2)

第3次 九州地方の特色について地図を活用してまとめ、説明しよう・・・1時間

(評価計画を含めて書く場合)

(全5時間)

次 程	ねらい (第○時)	主な学習活動・内容	資料	評価方法と【評価規準】
第 1 次	資料の読み取りを 基に九州地方を特色 付ける地理的事象を 見いださせる。 (①②)	地図帳や統計資料から 九州地方の地形や気候、 土壌の特色を見いだす。 九州地方に多い自然災 害を整理し、防災対策に ついて考える。 九州地方の自然環境が どのように生活や産業に 関係しているかをノート に書き、発表する。	地図帳 統計資料	ワークシートの記述内容か ら、「地形や気候など自然環 境の特色を読み取っている か」を評価する。 【技-①】 ノートの記述内容から、「自 然環境と関連した生活や産業 を追究しようとしているか」 を評価する。 【関-①】
第 2 次	九州地方の特色あ る農業や工業につい て、自然環境を中核 とした考察の仕方を 基に、多面的・多角 的に考察させる。 (③本時④)	地図帳から稲作がさか んな地域とその他の農業 がさかんな地域を把握 し、その理由を自然環境 から考える。 九州地方の各種の工業 が発達した理由や立地条 件を自然環境と結びつけ て考える。	地図帳	白地図やワークシートの記 述内容から、「九州地方の農 業や工業の分布の特色をいく つかの自然環境と関連させて 捉えているか」を評価する。 【思-①】
第 3 次	九州地方の地域的 特色について理解し たことを地図や図表 を活用してまとめさ せ、それを基に説明 させる。 (⑤)	九州地方の自然環境に 関連のある農業・工業以 外の産業を調べる。 白地図に学習した内容 をまとめ、記入する。 自然環境の視点でみた 九州地方を整理し、図表 にまとめ、実物投影機を 使って説明する。		白地図やワークシートの記 述から、「自然環境と関連さ せて、地域的特色を理解して いるか」を評価する。また、 「考察したことを白地図や図 表にまとめ、適切に表現して いるか」を評価する。 【思-②】【知-①】

6 本 時

(1) 目 標

九州地方の特色ある農業について、自然環境を中核とした考察の仕方を基に、多面的・多角的に考察することができる。

(2) 展 開

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
10分	1 地図帳から稲作がさかんな地域とその他の農業がさかんな地域を把握する。	○ 地図帳から筑紫平野，宮崎平野，鹿児島，沖縄でさかんな農業を調べさせる。		
なぜ、稲作がさかんな地域とそうでない地域があるのだろうか。				
20分	2 それぞれの地域の農業が発展した理由を考える。	○ 地形や気候，土壌，経済的条件などから，それぞれの農業がさかんになった理由を考えさせる。 ○ 10分後，班になって，意見交換させる。	それぞれの地域の農業がさかんな理由をいくつかの自然環境と関連させて捉えている。 【思－①】	白地図 ワークシート
15分	3 学習課題について考えたことを発表し，学級全体で話し合う。	○ 班ごとに判断の根拠となった資料を示して，発表させる。 ○ 意見の相違点について，学級全体で話し合いをさせる。		
5分	4 学習のまとめを行う。	○ ワークシートに本時の学習でわかったことと疑問に思ったことを記入させる。		

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	日本全体の農業の特色や外国から輸入される農産物についての表現がみられる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	「稲作に適したところはどこか」「稲作に適しているのに他の作物をつくるのはなぜか」など考えるための視点を与える。